

2017年2月3日 No.102

ブタプラセンタエキスの経口摂取に軽微な更年期症状の改善作用を確認

スノーデン株式会社の「ブタプラセンタエキス」を用いたヒト臨床試験により、同エキスの経口摂取に、更年期女性における軽微な更年期症状を改善する効果があることが確認されました。その試験結果が学術雑誌Climactericオンライン版に、2017年1月23日、掲載されましたのでお知らせいたします。本臨床試験は、日本胎盤臨床医学会（理事長：長瀬真彦）所属の医師が中心となり実施されたものです。

更年期症状改善の第一選択薬はいわゆるホルモン療法ですが、副作用リスクの懸念も指摘されていることから、特に症状の重篤でない女性においては、副作用懸念のない代替療法が求められています。プラセンタエキスもそのような効果を期待して用いられておりますが、十分なエビデンスの報告はこれまでありませんでした。

試験方法の概略

更年期女性（50名；年齢45～59歳；軽微な更年期症状を有する）を対象に「ブタプラセンタエキス300mg/日群」と「プラセボ群」にランダムに振り分け、多施設、二重盲験で12週間にわたる臨床試験を実施しました。更年期症状は簡略更年期指数にて評価し、血清中のエストラジオール及び卵胞刺激ホルモンの濃度を測定しました。血液生化学検査、血球検査、尿検査で安全性を評価しました。

試験結果

簡略更年期指数の総合計スコアは、「ブタプラセンタエキス300 mg/日群」において、8週及び12週後に、摂取開始前に比し有意に改善しましたが、「プラセボ群」においては有意な改善はみられませんでした。12週後においては群間での有意差も認められました。簡略更年期指数の「血管運動神経系症状」、「精神・神経系症状」、及び「運動・神経系症状」関連の各サブスコアについては、いずれにおいても「ブタプラセンタエキス300 mg/日群」でのみ、8週及び／又は12週後で有意な改善がみられました。各ホルモンについては有意な変動はなく、また安全性の懸念を示唆する変化は認められませんでした。

以上から、ブタプラセンタエキスの経口摂取には軽微な更年期症状を改善する効果が期待できることがわかりました。